

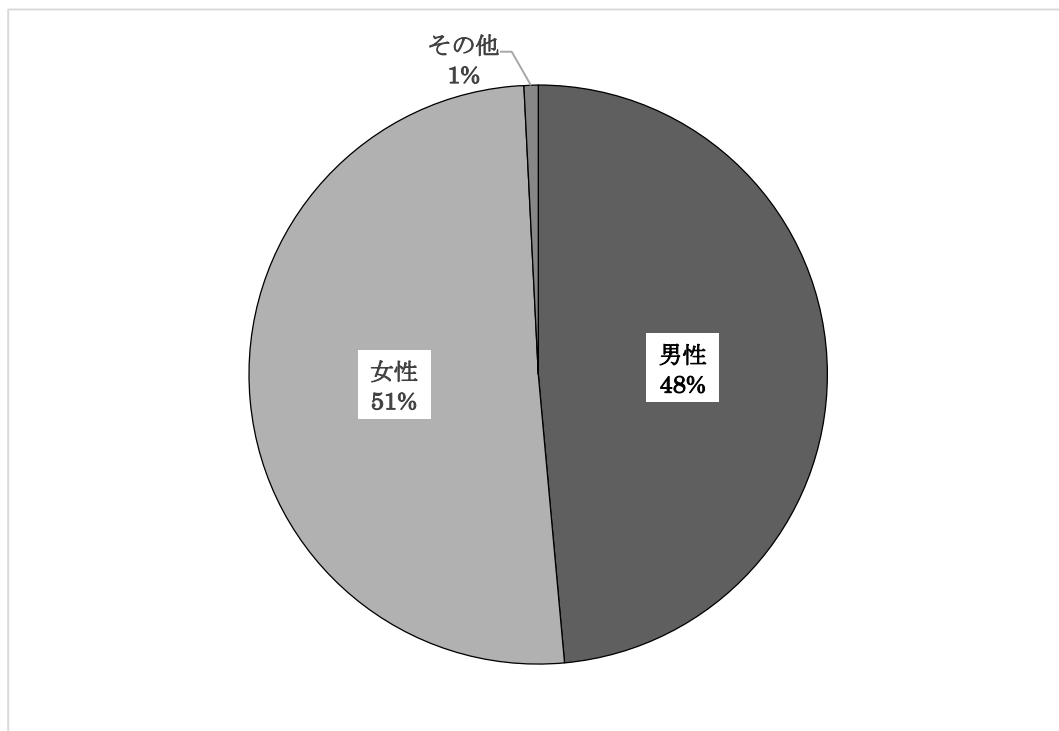
中高生アンケート結果報告書

調査の概要

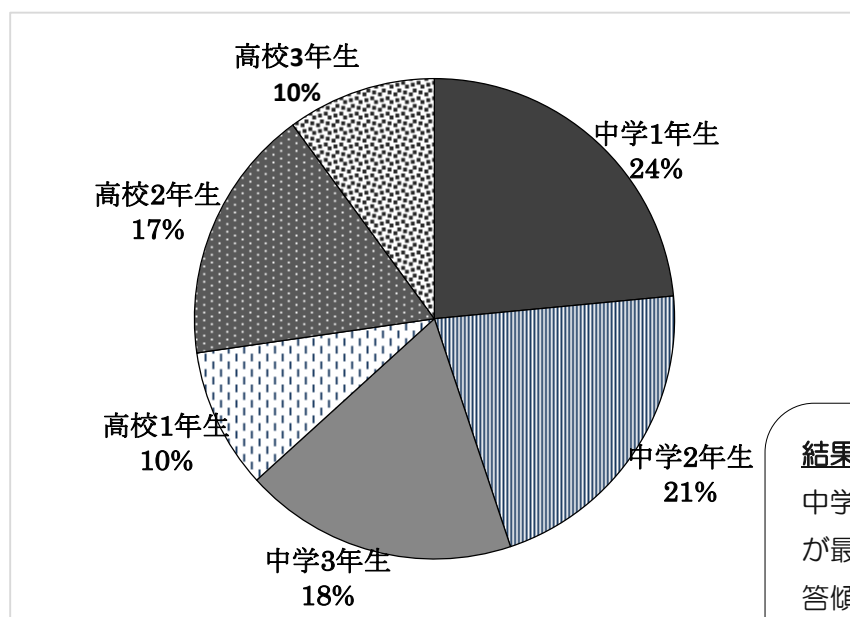
- ① 調査期間 令和7年10月27日～令和7年12月21日
- ② 調査対象 市内高等学校4校及び市内中学校7校に通う全生徒 1,976人
- ③ 調査方法 Web 回答限定
- ④ 回答状況 Web 回答限定：1,005件（50.9%）
- ⑤ 協力校 県立村上高等学校・村上桜ヶ丘高校・荒川高校・村上中等教育学校
村上第一中学校・村上東中学校・岩船中学校・荒川中学校・
神林中学校・朝日中学校・山北中学校

あなたとご家族について

問1 あなたの性別は



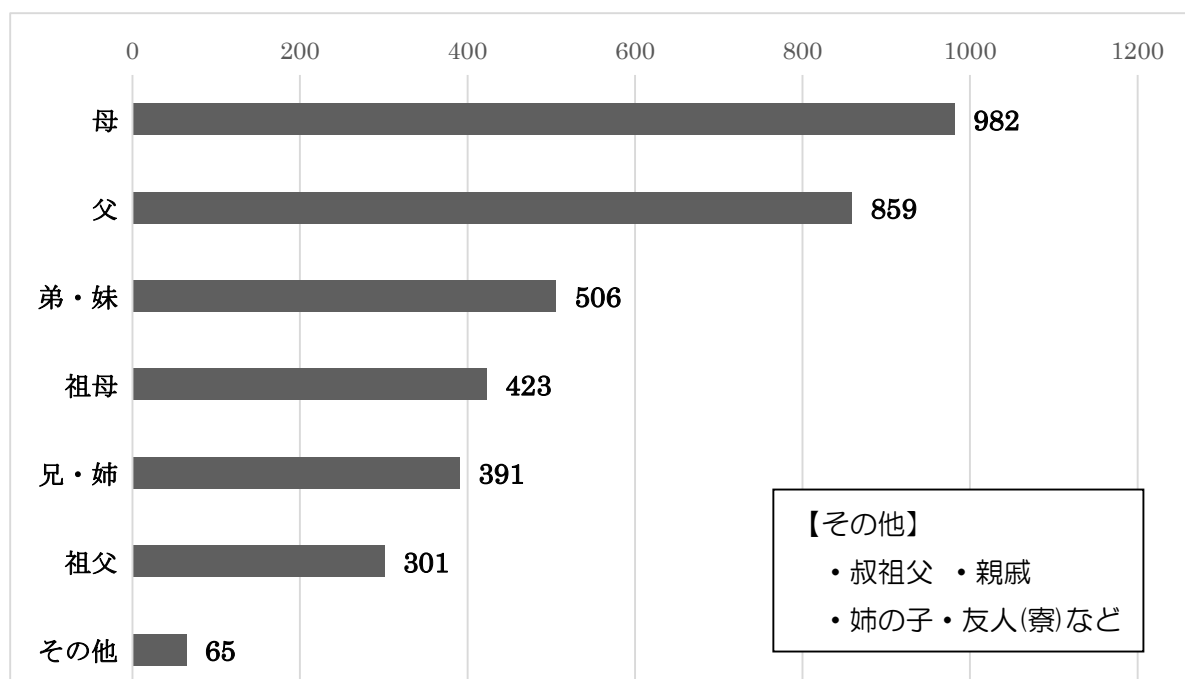
問2 あなたは、何年生ですか。



結果から見えること

中学生の割合がやや高く、特に中学1年生が最も多い結果です。そのため、全体の回答傾向には、中学生の感覚が比較的強く反映されているとみられます。

問3 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。
(あてはまるものすべてに○)



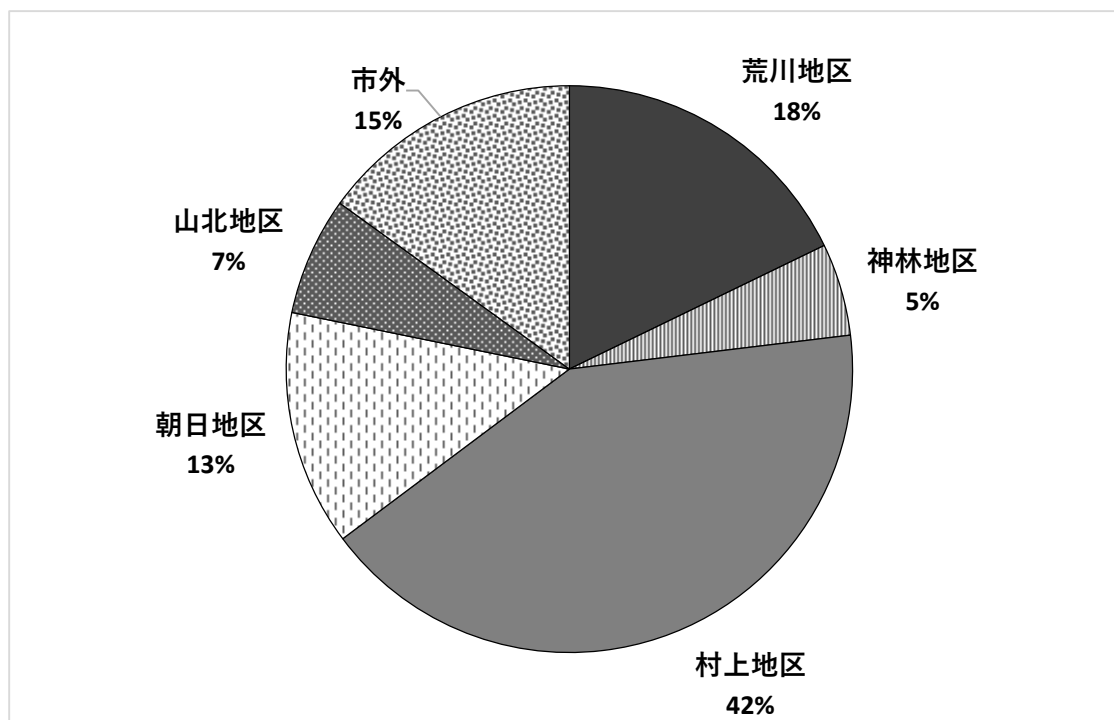
【その他】

- ・叔祖父 ・親戚
- ・姉の子・友人(寮)など

結果から見えること

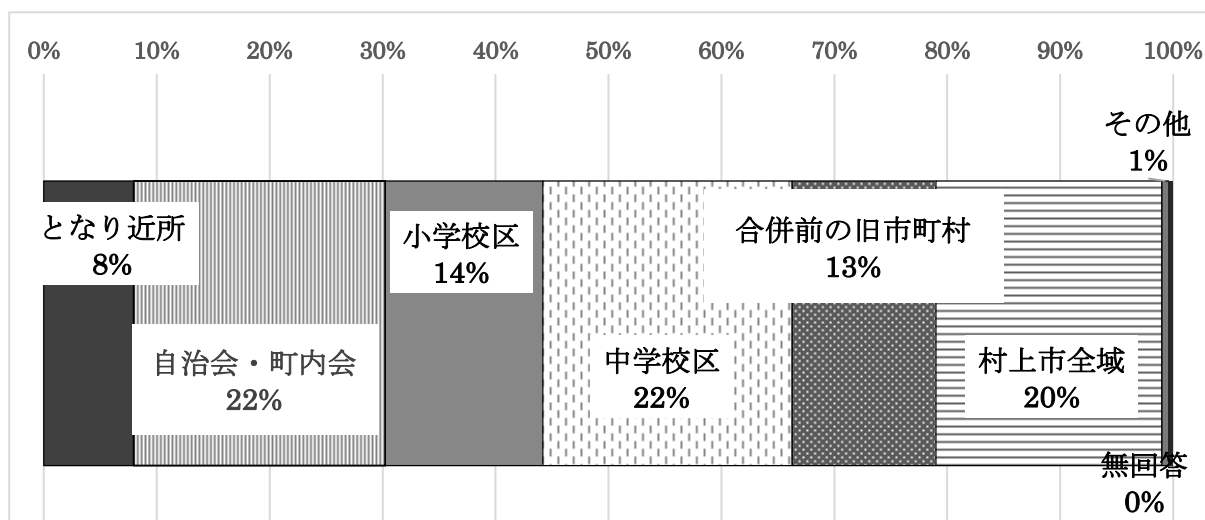
祖母と同居している生徒が約4割、祖父と同居している生徒が約3割となっています。このことから、村上市の中高生にとって高齢者は遠い存在ではなく、日常生活の中で関わる身近な存在であることがうかがえます。また、高齢者福祉、認知症などの課題について、生徒にとっては「知らない誰かの問題」ではなく、自分の家族や近所にも関わる身近な問題として受け止めやすい状況にあることが読み取れます。

問4 お住まいの地域はどちらですか（1 つに○）



お住まいの地域について

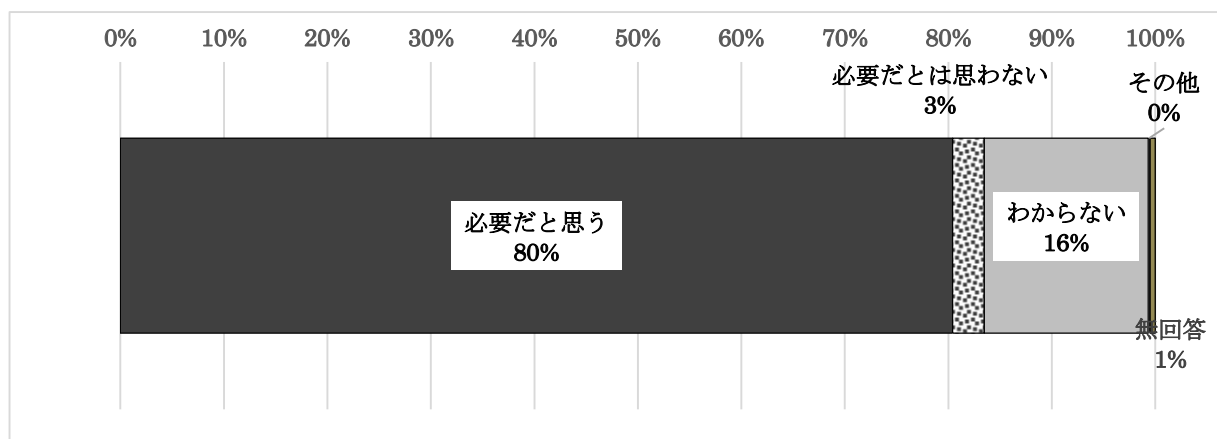
問5 あなたにとって「地域」と感じるのはどのくらいの範囲ですか（1 つに○）



結果から見えること

「自治会・町内会」と「中学校区」がともに 22%で最多、一方で「村上市全域」も 20% あり、中高生にとっての地域認識は、近所・町内・学校区・市全域に分散しています。身近な生活圏や学校生活圏を中心としつつも、市全域まで含めて捉える生徒も一定数おり、地域認識には捉え方に違いがあることがうかがえます。

問6 地域で暮らす住民同士の自主的な支え合い、助け合いについて、
どのように思いますか （1つに○）



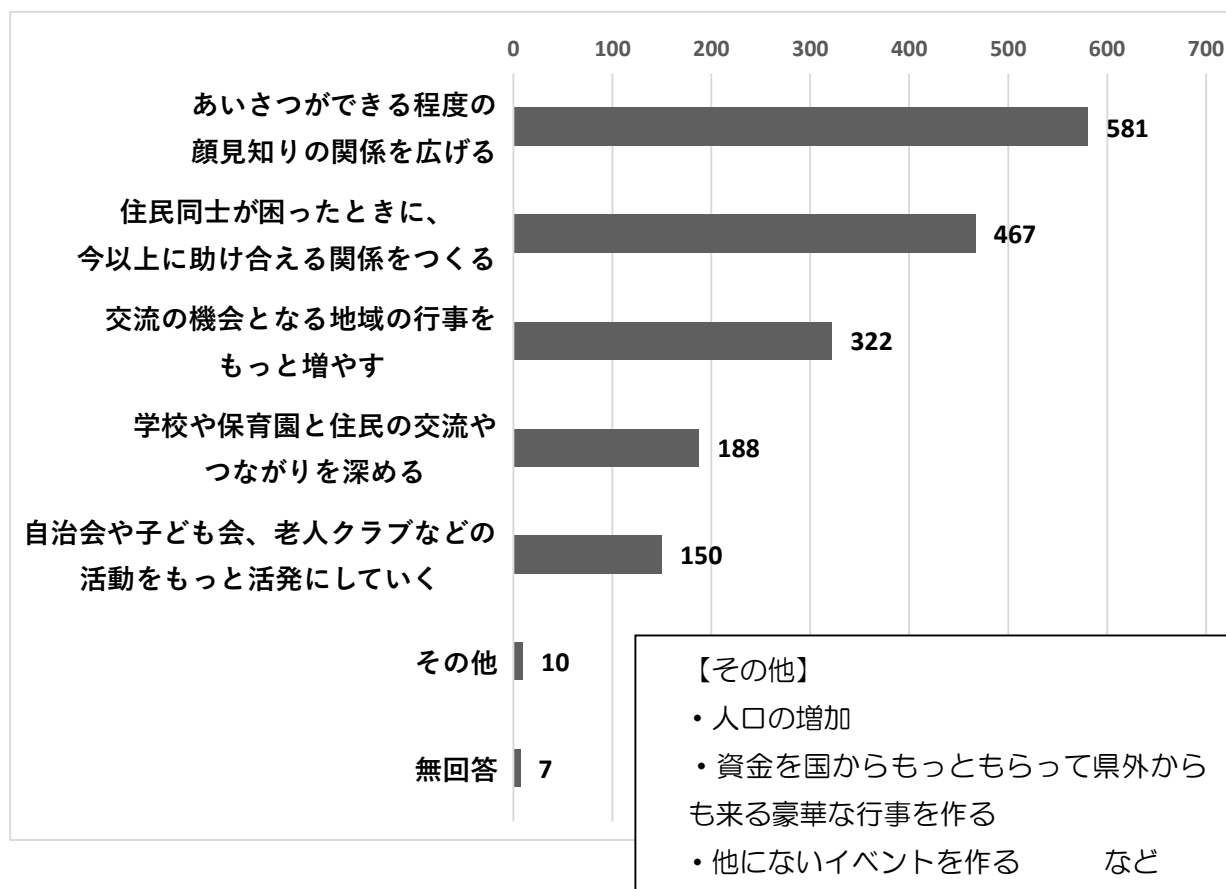
【その他】

- ・ 場合によっては必要だとも不必要だとも思われる
- ・ 無意識のうちに支え合っていると思う など

結果から見えること

地域で暮らす住民同士の自主的な支え合い・助け合いについては、「必要だと思う」が80%を占めており、多くの中高生が地域における支え合いの重要性を認識していることがうかがえます。一方で、「わからない」が16%となっており、支え合いや助け合いの必要性について判断しきれない生徒も一定数みられます。

問7 地域活動や行事がさらに活発に行われるようにしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか（〇は2つまで）

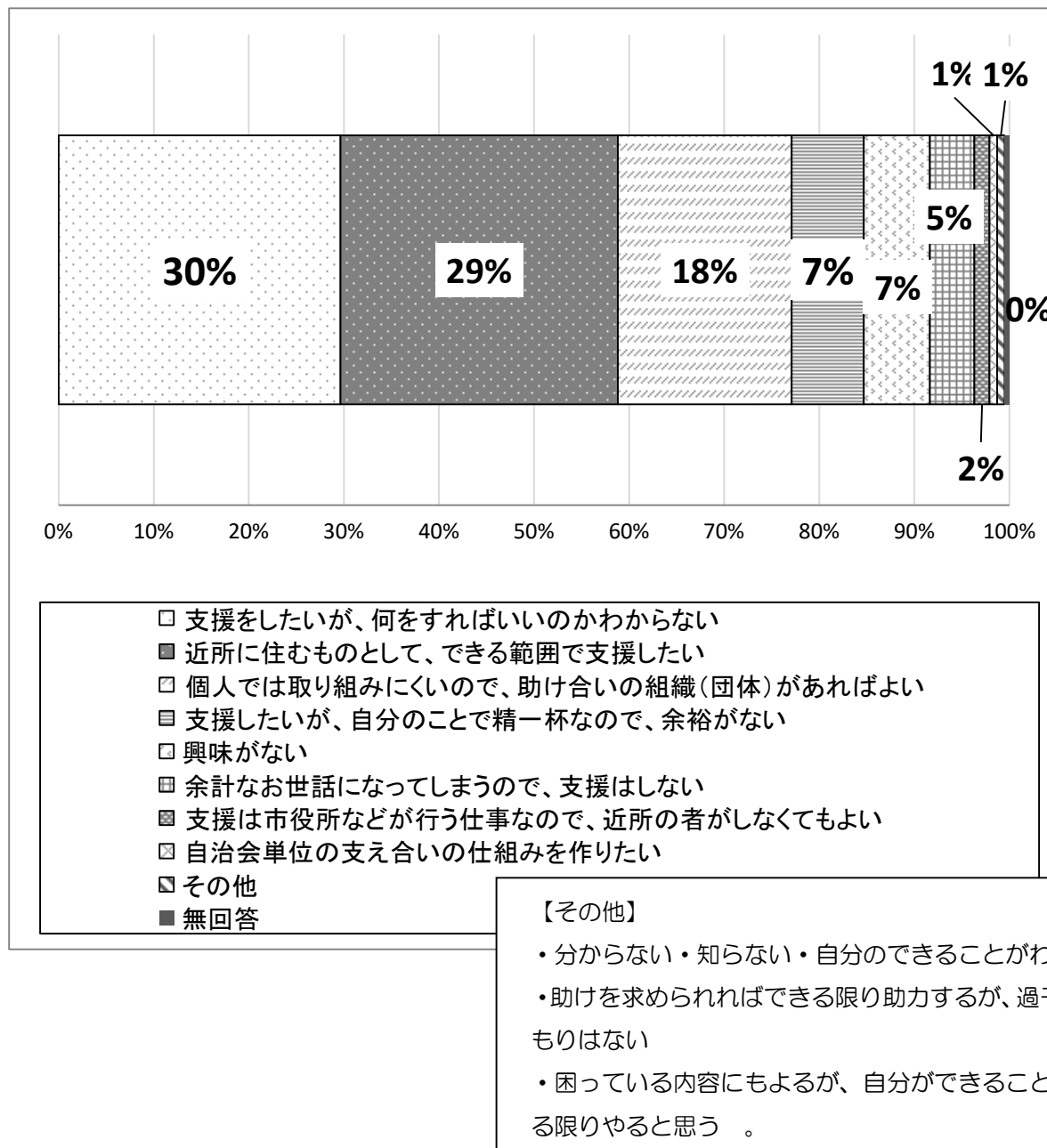


結果から見えること

最も多いのは「あいさつができる程度の顔見知りの関係」です。
 中高生は、いきなり「地域福祉活動に参加しよう」「自治会活動を担おう」と言われるよりも、まずはあいさつできる関係、顔が分かる関係が大切だと考えています。
 また、「自治会や子ども会、老人クラブなどの活動を活発にする」は比較的低く、既存団体を活性化することよりも、日常的でゆるやかなつながりを重視していることが分かります。

生活するうえでの課題や地域の福祉について

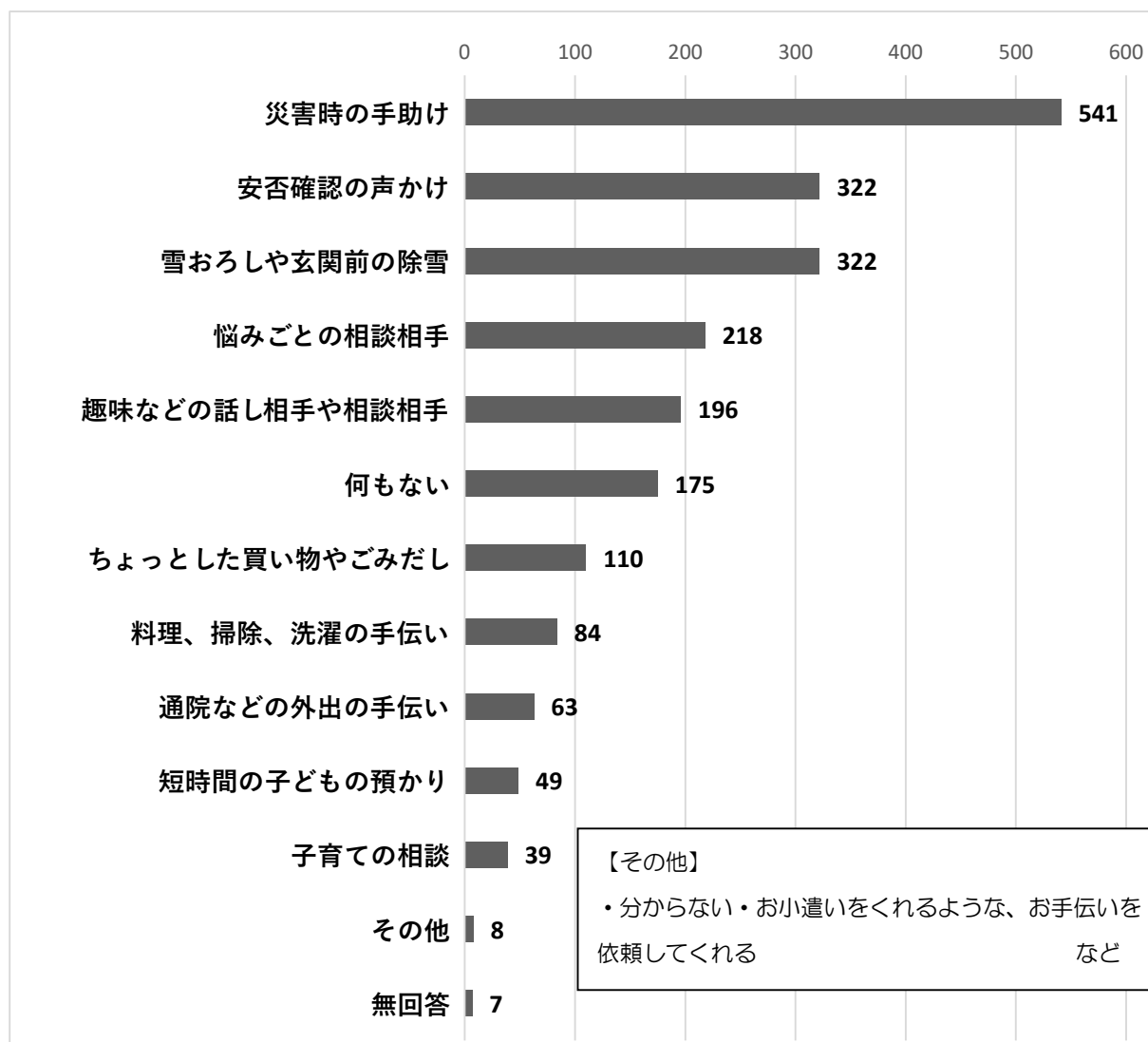
問8 あなたは、近所に困っている人がいた場合の支援をどう考えますか。



結果から見えること

最も多いのは「支援したいが、何をすればいいのかわからない」です。支援への拒否感が強いわけではなく、むしろ、手助けする気持ちはあるが、行動の仕方が分からないという状態です。「できる範囲で支援したい」も29%あり、合わせると、かなり多くの中高生が潜在的には前向きです。一方で、「余計なお世話になるのでは」という不安もあります。これは若者らしい慎重さであり、どこまで関わってよいのか分からないという心理があると考えられます。

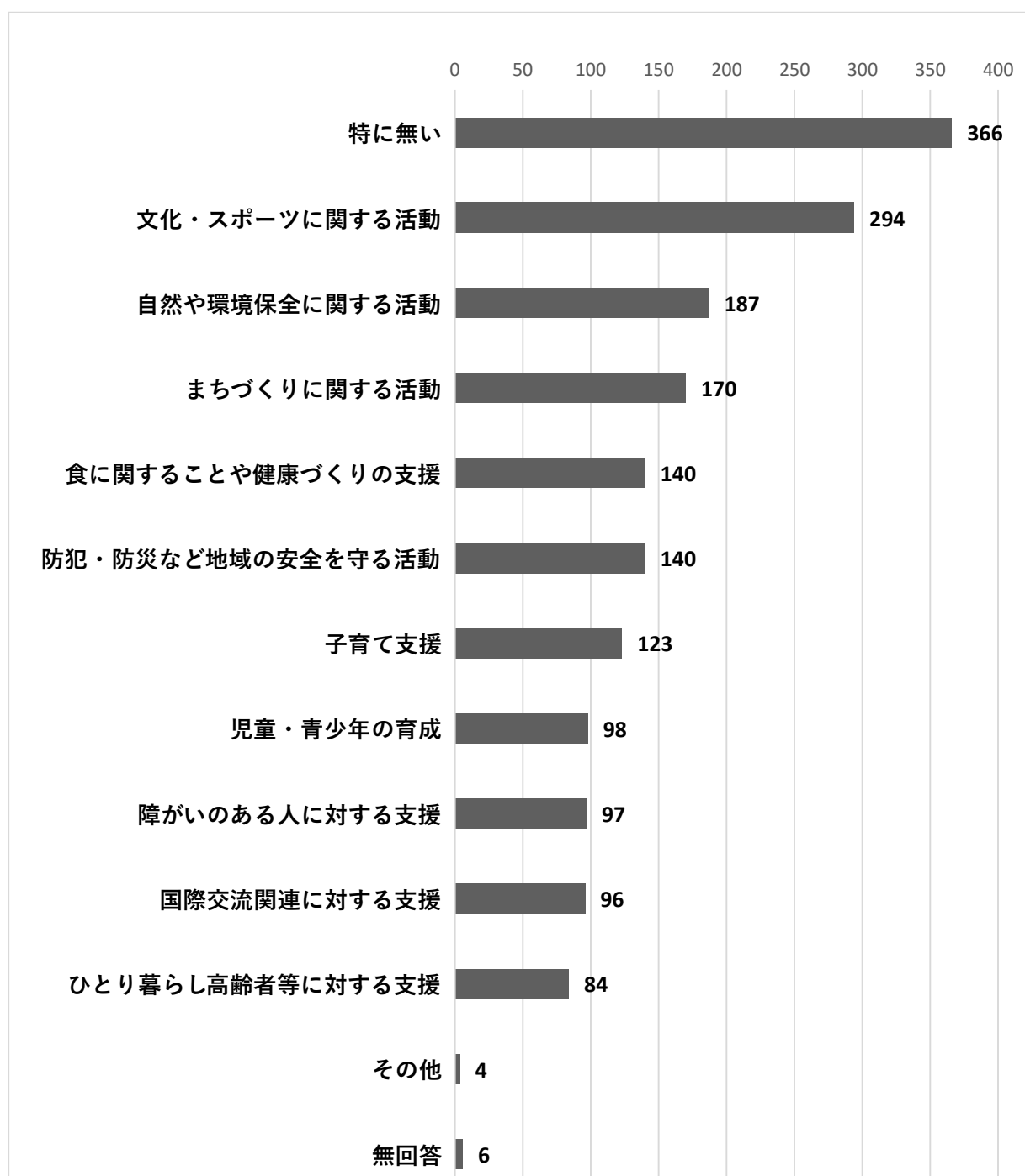
問9 あなたやご家族が困ったとき、地域でどのような手助けをしてほしいですか
(あてはまるものすべてに○)



結果から見えること

「災害時の手助け」が最も多く、半数を超えています。次いで、「安否確認の声かけ」「雪おろしや玄関前の除雪」が多く、災害や雪への対応など、村上市の地域特性を反映した支援へのニーズが高いことがうかがえます。中高生にとって、災害時の避難や大雪時の生活への不安は身近な課題であり、家族や近所の高齢者など、支援を必要とする人への手助けの重要性を感じていることが読み取れます。また、「悩みごとの相談相手」も一定数あげられており、地域に求められる支援は、災害対応や除雪などの実質的な手助けに加え、日常的な声かけや相談できる関係づくりといった心理的な支えにも及んでいると考えられます。

問10 今後、参加したいと思うボランティア活動などがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

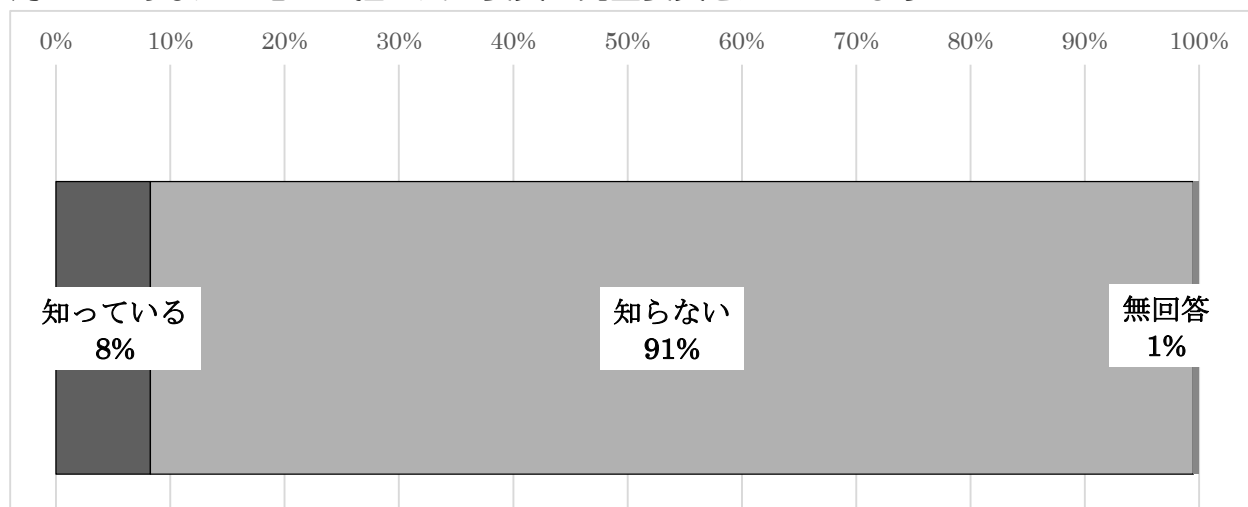


結果から見えること 今後参加したいボランティア活動については、「特に無い」が366件で最も多く、全体の約36%を占めています。現時点では、ボランティア活動への参加意向を明確に持っていない中高生が一定数いることがうかがえます。

具体的な活動分野では、「文化・スポーツに関する活動」が294件で最も多く、次いで「自然や環境保全に関する活動」が187件、「まちづくりに関する活動」が170件となっています。このことから、中高生にとっては、文化・スポーツ、環境、まちづくりなど、日常生活や学校生活の中で身近に感じやすい分野が、参加しやすい活動として受け止められていることが読み取れます。

地域福祉を進めるための取り組みについて

問 11 あなたの地区の担当民生委員・児童委員を知っていますか

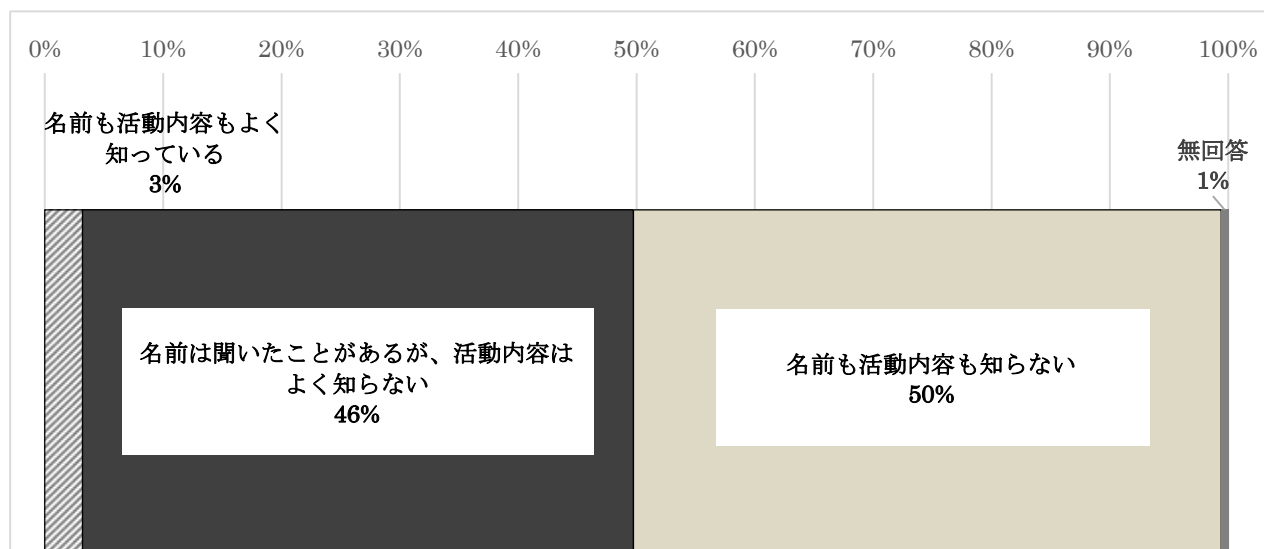


結果から見えること

担当の民生委員・児童委員について、十分に認知されていない状況がみられます。

今後は、学校や地域活動などを通じて、民生委員・児童委員が地域の見守りや相談支援を行う身近な存在であることを、分かりやすく伝えていく必要があります。

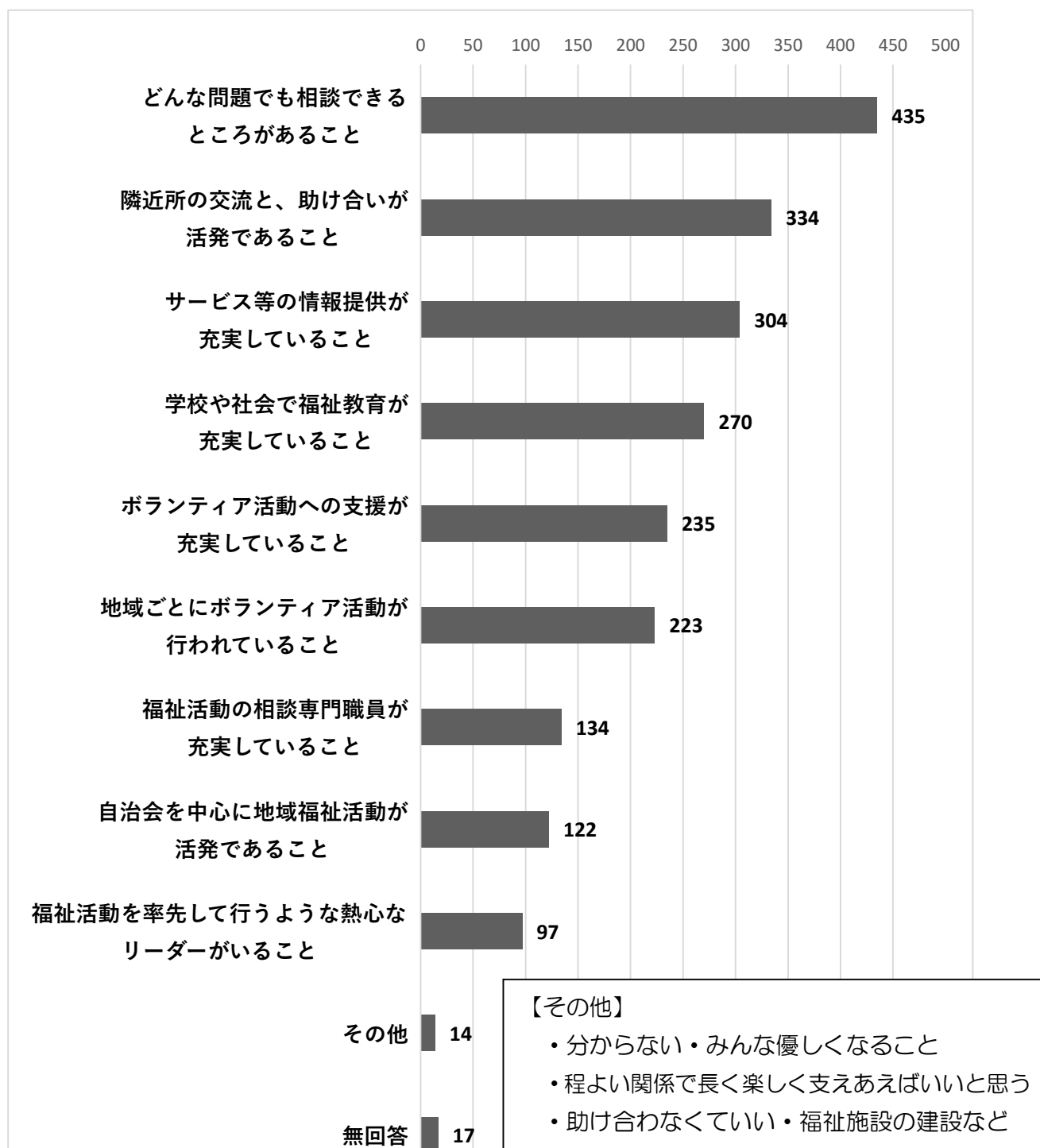
問 12 社会福祉協議会の活動について知っていますか



結果から見えること

社会福祉協議会については、「名前も活動内容もよく知っている」が3%にとどまり、活動内容まで理解している生徒は少ない状況です。一方で、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」が46%となっており、名称は一定程度知られているものの、具体的な役割や活動内容までは十分に伝わっていないことが読み取れます。

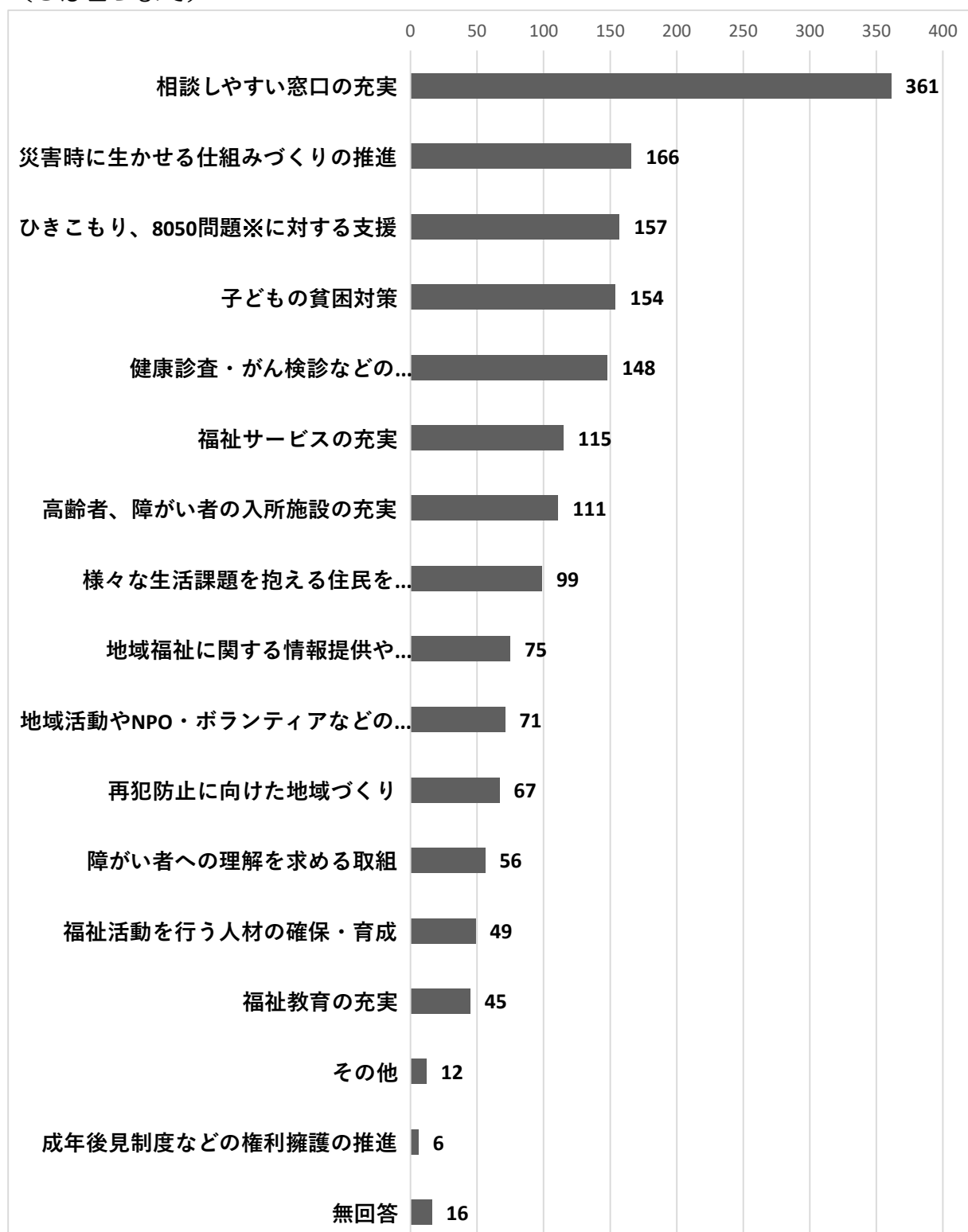
問 13 身近な地域で住民が助け合い支え合うために、どのようなことが大切だと思いますか（〇は3つまで）



結果から見えること

「どんな問題でも相談できる場所があること」が最も多くなっています。
このことから、中高生は、困ったときに気軽に相談できる場所があることを、地域の支え合いにおいて重要だと考えていることがうかがえます。
また、隣近所の交流や情報提供、福祉教育も多く挙げられており、日頃のつながりづくりや、必要な情報を分かりやすく伝えることも求められています。

問 14 今後、以下のどの地域福祉関連施策を優先して充実すべきだと思いますか
(〇は2つまで)



結果から見えること

ここでも「相談しやすい窓口の充実」が最も多くなっています。このことから、中高生にとっても、困ったときに安心して相談できる場所が重要であることがうかがえます。また、「ひきこもり、8050 問題に対する支援」や「子どもの貧困対策」も上位にあがっており、若い世代も地域や家庭が抱える課題に関心を持っていることが読み取れます。

問 15 だれもが安心して暮らすことができる地域福祉の推進について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

※地域福祉の推進に関して、たくさんのご意見やご要望をいただきました。全 71 件の自由記述回答の中から、一部抜粋し原文そのまま掲載しています。ご覧ください。

- ◆若い人たちをもっと増やせいる活動などを充実させる。
- ◆いつでも相談できるような施設があるといい
- ◆一人親家庭などの支援をもう少ししてほしい
- ◆みんな笑顔
- ◆交通面を便利にする
- ◆地域全体が良い雰囲気で助け合うこと
- ◆地域に住む人々と関わったり、助け合える場所やあつまる会など、子供から大人までの全員が参加できるものを計画し実行することが大切だと思います
- ◆街の伝統について深く知ることが大事
- ◆健康診断やがん検診の案内を増やす
- ◆みんなが信頼して暮らせるまちづくり
- ◆スマホを持っていない高齢者向けの情報配信
- ◆不自由な人にとって病院に行くとき高齢者専用のバスがあるといい
- ◆災害時の時の対策、ボランティア活動
- ◆子育ての支援が多いといいと思います。
- ◆難しい言葉が多く、普段耳にしない言葉がたくさんあった。地域福祉とはなにか？学校でも身近に触れる機会があるとボランティアなどに興味を持てると思います。
- ◆近所の方たちが高齢者が多く能登半島地震のときに避難してない方が多かったため、もう少し災害の危険さや避難場所の確認、声が掛け合える関係づくりを充実させてほしい
- ◆みんなが自分のことだけでなく、他の人のことについて考えて生活したほうがいいと思った。
- ◆よりよい暮らしができるように同じ地域に住む若者たちで話し合う時間を作る。
- ◆助け合う
- ◆地域の人と助け合いながら住みやすい村上市を作っていけたらいいなと思いました。
- ◆子供の貧困対策
- ◆地域の人と助け合いながら住みやすい村上市を作っていけたらいいなと思いました。
- ◆誰にも相談せずに、1人で抱え込んでいる人がいると思います。「こんなこと相談できますよ！」とかの呼びかけをすれば1人で悩みを抱え込む人がちょっとは少なくなるんじゃないかと思いました。"
- ◆住宅地の雪対策をもっとしてほしいです
- ◆何でも相談できるところを作る

- ◆誰もが安心して暮らせる地域づくりをしたい。
- ◆1人1人が支え合う
- ◆挨拶とか交流を深める
- ◆安心して暮らすことができる 地域について福祉をいかしていきたい。
- ◆地域をより良くするために大切だと思うので頑張ってもらいたい。
- ◆みんなが楽しく過ごせるようにする
- ◆いつでも相談できる場所
- ◆治安が悪い気がする
- ◆高齢者が多いので健康に関することや除雪作業をしてもらえると助かります。
- ◆災害時などの高齢者の安否確認を積極的にできる人が増えると良いと思う。
- ◆地域ごとでの防災訓練、防災講座などを開くと良いと思う。"
- ◆再犯防止
- ◆一人ひとりの命を大切にしていこう
- ◆皆が笑顔でどんな人も楽しみながら地域に触れ良さを感じながら人生を堪能できる地域にしたい
- ◆私が住んでいる部落でひきこもりで親に縋りながら生きている人がいると聞いた。それだと地域行事に参加もできないし仲良くもなれないからそれに対する政策なども取ってほしい。できることがあれば私も協力したいと考えている。
- ◆災害時にしっかり食べ物飲み物が普及される福祉だと安心して暮らせると思います
- ◆8050問題のことを知り、重大さに気づくことができた。
- ◆地域の人たちともっとかかわれるようになりたい
- ◆地域の人が交流できるイベントを増やしてほしい
- ◆災害の時の手助け
- ◆不審者や窃盗、熊など治安の悪さをなくせばいいと思う
- ◆村上市の1家庭に1個熊スプレーをあげる
- ◆熊を人里に降ろさないために、山を開拓しないことや檻を設置して山に戻したり、山と人里の境目に電気柵を設置するなど。
- ◆幸いわたしにはまだ縁のない話ですが、匿名相談システムのメールや電話、手紙で届いた困りごとにはできるだけ真摯に対応してほしいと思います。送り主はきっと名も知らない人に頼るしかないほど切羽詰まっているはずなので……。
- ◆だれもが安心して暮らせる地域をつくるためには高齢者の一人暮らしや子育ての負担、障がいのある人の不安などは、行政の支援だけでは解決しきれない部分がある。だからこそ、住民同士が顔を合わせ、気軽に声をかけられる関係を作ることが必要だと思う
- ◆目に見えない課題の方が多いから定期的にアンケートなどをもって情報を入手すべきだと思う。
- ◆ゴミ出しの日程を確認したり、困った時に助け合える関係性を近所の人たちと作っていく。
- ◆教員を増やす

調査結果のまとめ

今回、初めて中高生を対象に地域福祉に関するアンケート調査を実施しました。調査結果では、住民同士の支え合いについて、「必要だと思う」と回答した生徒が80%を占め、多くの中高生が地域で助け合うことの大切さを感じていることが分かりました。

一方で、近所に困っている人がいた場合には、「支援したいが、何をすればいいのかわからない」という回答が最も多く、支援する気持ちはあっても、具体的な行動につながりにくい状況がうかがえます。

地域でしてほしい手助けでは、「災害時の手助け」が最も多く、「安否確認の声かけ」や「除雪」も多く挙げられました。災害や雪への対応など、村上市の地域特性に応じた支え合いが求められています。

また、地域福祉を進めるためには、相談できる場所や相談しやすい窓口の充実がより重要とされ、困ったときに安心して相談できる仕組みづくりが求められています。

自由記述では、相談体制、災害時の支援、除雪、高齢者への声かけ、子育て支援、地域交流、交通、治安など、身近な生活に関する多様な意見が寄せられました。

今回の調査から、中高生も地域の課題に関心を持っていることがうかがえます。今後は、若い世代にも地域福祉を分かりやすく伝え、福祉教育やボランティア体験、地域活動への参加機会を広げてまいります。